

Children's Rainbow Center Newsletter

今年もお世話になりました。
来年もよろしく
お願いいたします。

Rainbow Times

JaSPCAN くまもと大会で報告しました！

日本子ども虐待防止学会 JaSPCAN が 11/26-28 に熊本市で開催されました。くまもと大会ということで、熊本に設置された「こうのりのゆりかご（赤ちゃんポスト）」に関するシンポジウムが多く開催されていました。

虹センターでは毎年ブースを設け、いろいろな展示を行っています。

今年の虹センターのブースでは、平成 23 年度研修のご案内や、研究活動を報告しました。これまで発行した紀要や報告書なども置き、多くの方が手にとってみてくださいました。

また、虹センターが事務局を担う子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレーの模様もブース展示しました。たすきリレーも徐々に広がっていき、今年は 5 か所で開催されました。今回のブースではその 5 か所がつかないたすきが一堂に会しました。各地のオレンジ色のたすき 5 本がずらっと並ぶと壮観でした。その場がぱっと明るくなりました。



親権制度のあり方

～子どもの福祉を守るために

親権制度をめぐるのは、「治療が必要なのに親の許可が下りない」など子どもの福祉が尊重されない状況が問題となっていました。また、親権喪失制度はすでにありますが、喪失となると親子関係を断ち切ることになり子どもと親に大きな影響を与えすぎるなどの意見が現場からはでていました。そのため、「法制審議会児童虐待防止関連親権制度部会委員会」がもうけられ、親権制度のあり方が議論されてきました。そして、この 12 月に「児童虐待防止のための親権に係る制度の見直しに関する要綱案」がとりまとめられ、親権を 2 年間まで停止できる制度の導入が組み込まれました。また、厚労省でも児童福祉施設入所児等の親権のあり方などについて議論がされています。これらの動きによって、少しでも子どもの福祉が守られる社会になりますように...

法務省 HP

http://www.moj.go.jp/shingi1/shingikai_jidouguyakutai.html

虹センターの HP では、H23 年度研修一覧を掲載しております。ぜひご覧ください。

海外ニュース

12月1日は世界 AIDS デー。CRIN ニュースの報告から、世界の現状をピックアップしてご紹介

今年の新規エイズ感染者は 1999 年に比較して 2 割減。しかし、若い女性はなお新規感染の傾向高く、男性の 8 倍の感染者がいるといえます。また、治療が必要な者の 35% しか治療を受けていないという現状もあります。AIDS Society India(インドの HIV 専門医師団体)が、HIV の母子感染予防に失敗したと報告。子どもの HIV 感染の主な経緯は HIV 陽性の母親からの垂直感染ですが、インドの HIV 感染者の半分は自分が HIV 陽性だということを知らない場合が多く、09 年だけでも 18,000 人の子どもが後天的に感染したと考えられています。

先月アメリカで、母親(43)が娘(4)の首を切り殺害した事件がありました。娘がネットで性的奴隷(意に反して性的行為を強要される)として売られるのではないかと考えた母親が娘を守る為に犯行に及んだといえます。現場の壁には娘の血で『Devine Mercy(神の慈悲)』と書かれていたそうです...この母親には、父親の違う 3 人の娘がいましたが、長女(18)は自立、次女(10)は父親と暮らしており、亡くなった三女は母親と二人暮らしでした。母親には、飲酒運転及び子どもを危険に曝したとして告訴された経歴があり、また、10 年前に当時 1 歳だった次女と心中未遂、08 年に次女の親権を無くしていました。長女は母親が精神病だったと言っており、母親は精神鑑定を受ける予定。



企画・編集室(担当:南山)お気づきの点は下記まで...

〒245-0062 横浜市戸塚区汲沢町 9 8 3 番地 子どもの虹情報研修センター

TEL 045-871-8011 FAX 045-871-8091 Email info@crc-japan.net